

市内高校生らアート競演

文化博物館 81人が絵や造形出品

明石の高校生や近隣の大学生が出品する秋の美術展「あかし若手アートチャレンジ」が25日、明石市立文化博物館（同市上ノ丸2）で開幕した。81人が絵画や造形など計87点を出品。初日は約10人が自分の作品を解説するキャラリートークに挑戦。聴衆約30人を前に、緊張した様子ながらも見どころなどを語った。

（松本寿美子）



同館が2017年から始 作業まで裏方仕事も体験で
め5回目。チラシ・ポスタ きるのが特徴。同市内の5
1制作などの準備から展示 高校の美術科・美術部、2

自身の作品の解説にも挑戦

大学の生徒・学生が出品。今回は神戸芸術工科大学の指導で出品した高校生が一緒に創作するワークショップもあり、親交を深める。

「無響」と題した金属造形を出品した同大4年アート・クラフト学科の山田晋貴さん(22)は「吸音材をモチーフに、ジュエリーを着用した人が周囲で起こることを吸収、糧にする思いを込めた」と説明。「高校生の皆さんにも金属造形、ジュエリー作品を知ってもらえればいい」と話した。

明石西高校2年の平柳蓮菜さん(16)はユニークな形のつぼやれんが、電球を描いた油絵を紹介。「不安定なつぼの形が最初は気持ち悪かったけれど、次第に不安定さが魅力と感じ、強調した」と解説した。平柳さんは「もつと整理して話せば良かったけど、細部まで見てもらえたらいいな。他の人の発表からは、作品の魅力がよく伝わってきました」と話した。

10月10日まで。

出品者が自分の作品の見どころなどを紹介したキャラリートーク＝明石市立文化博物館